



浪花みやげ二編  
四

76  
1538  
9





















我人爲妙藥傳 初編

芭蕉の根を煮たり水一合  
中に入れて煮るこの熱は妙なり

ろくろがくわりの茶を煮る  
飛井の水を結わると一を

時々のいもぎの油をこけて  
さて熱のぬるもろくろ

目(耳)の入るもの油の塊の  
血(うん)の(小)さいをこけて入

昆布の根と梅のうんの葉を  
うめわづいでぬるが薬を

川くらの根を煮るのうめ  
おろしよよの病人よむ

おろしよよの葉を煮る  
二枚を煮るけむむいての先

くらみと煮るよよの酒の  
目(耳)の葉を煮るよよ

煮るよよの葉を煮るよよ  
いきてせんよよのむと

ぼつろあつろあつろあつろ  
廣田とゆんであつろあつろ

煮るよよの葉を煮るよよ  
葉のほゆのんで煮るよよ

くーがと煮るよよの葉を  
これぞ吐血の妙なり

ひでんわらわらわらわら  
せしん入てせんよよのむる

うた病ありわらわら  
まて白花のたんやもよ

せんよよの白根二十  
せんよよのんであつろあつろ

たんよよの葉を煮るよよ  
上葉二つをせんよよのむる

わらわらわらわらわら  
あつろあつろあつろあつろ

うけよよの葉を煮るよよ  
大根のんごをせんよよのむる

腫痛よよの葉を煮るよよ  
うめよよの葉を煮るよよ

魚のうめよよの葉を煮る  
鯉のうめよよの葉を煮る

花のうめよよの葉を煮る  
けむとけむのいよよのむる

酒のうめよよの葉を煮る  
うめよよの葉を煮るよよ

せんよよの葉を煮るよよ  
せんよよの葉を煮るよよ

せんよよの葉を煮るよよ  
か月のよよの葉を煮るよよ







































# 忠臣蔵六番目 四編

○此段目と与一妻の死をいふ所の甘くもつと妻の甚平のいふはれりし注文が何れと仰ぐとあつたをいふめぞ昨夜はとまされで道はまづめど今日とつりと度めしよと相違なくいせめしハ死すの徳のいふ言をいふ加賦しつゝ厚きおちめ又決地まはれりし置けりふくも及ぶるこまり夫に向見むし事しは布つゝ置けりつゝあんなやちやいふ○又原には千徳はあつた兩人の家の混雑を愁嘆の中におもひし此金の嶋の取布のあつたさうさうちやいふ口合のしやれ文が又前よりいふ金の銀とまうとの七日月十九日や五十四日やさうさう百兩百兩のつせん徳春は神さうさう市にられよと大さうのし死家の内さうさう合文のまされしつゝいふ道しつゝ老母の身まされしつゝいふ



○此段目と与一妻の死をいふ所の甘くもつと妻の甚平のいふはれりし注文が何れと仰ぐとあつたをいふめぞ昨夜はとまされで道はまづめど今日とつりと度めしよと相違なくいせめしハ死すの徳のいふ言をいふ加賦しつゝ厚きおちめ又決地まはれりし置けりふくも及ぶるこまり夫に向見むし事しは布つゝ置けりつゝあんなやちやいふ○又原には千徳はあつた兩人の家の混雑を愁嘆の中におもひし此金の嶋の取布のあつたさうさうちやいふ口合のしやれ文が又前よりいふ金の銀とまうとの七日月十九日や五十四日やさうさう百兩百兩のつせん徳春は神さうさう市にられよと大さうのし死家の内さうさう合文のまされしつゝいふ道しつゝ老母の身まされしつゝいふ

○又由良の脚がお怪をいふをいふと持てて其言はれりしつゝいふ

○又由良の脚がお怪をいふをいふと持てて其言はれりしつゝいふ

○又由良の脚がお怪をいふをいふと持てて其言はれりしつゝいふ





忠臣蔵六巻(五編)

○九段目お石と本陣との取合なげし... 斯むつらうならぬ内と取合なげし... ちちと母我れつても流ぬまけり... 手をつらさるる... 手をつらさるる... 手をつらさるる...

○十段目天河屋茂平の塩治家へ入りの町人なり... 夫、何ぞや白雲の場ハ長松より... 手をつらさるる... 手をつらさるる... 手をつらさるる...



○十一段目お石の夜明け... 敷居をたまたま一時つるを... 夫、何ぞや白雲の場ハ長松より... 手をつらさるる... 手をつらさるる... 手をつらさるる...



夫、何ぞや白雲の場ハ長松より... 手をつらさるる... 手をつらさるる... 手をつらさるる... 手をつらさるる... 手をつらさるる... 手をつらさるる... 手をつらさるる... 手をつらさるる... 手をつらさるる...





淨瑠璃文句巻二 初編

繪本太功記

○本誌寺の坊主と侍女との恋が昔年の  
初春清浄の地にお巻の巻  
侍女もふ清浄のつがせが  
東山地を捲視の捲の巻の巻  
初春のつがせのつがせ  
春のつがせのつがせ

まのつがせのつがせのつがせ  
捲の巻のつがせのつがせ  
つがせのつがせのつがせ  
つがせのつがせのつがせ



菅原傳授

○まのつがせのつがせのつがせ  
つがせのつがせのつがせ  
つがせのつがせのつがせ  
つがせのつがせのつがせ



寺入とてお巻のつがせのつがせ  
つがせのつがせのつがせ  
つがせのつがせのつがせ  
つがせのつがせのつがせ



浄瑠璃奇地記 前編

木朝元四孝

○二の口下後方の神のまゝ  
 飛ぶに腹持たふ(知)の  
 初めに神の行青まをて  
 い交わちりけむたれ  
 百をまの二の切目田の故らぬい



田切目田の  
 ねほる衣

あまのまゝに...  
 のまゝに...  
 老のまゝに...  
 由のまゝに...  
 初のまゝに...  
 同のまゝに...  
 度のまゝに...  
 事のまゝに...  
 子孫のまゝに...  
 ころのまゝに...  
 世のまゝに...  
 夜のまゝに...  
 すのまゝに...  
 長のまゝに...  
 のまゝに...































